城東中学校だより

【カラー版を、ホームページに掲載しています】

NO.5　2022.6.10
発行者　城東中学校長
TEL　26－7022

コミュニティ・スクールについて

城東中学校は、2009年の学校開校に合わせて、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）として運営することが計画されていました。そのため、開校の翌年に伊賀市で初めてのコミュニティ・スクールとなりました。伊賀市では、城東中学校のコミュニティ・スクールの成果を受けて、昨年度からは全ての小中学校でコミュニティ・スクールを実施しています。コミュニティ・スクールとは、学校と保護者や地域の皆さんが学校運営協議会という組織をつくって、知恵を出し合い、協働して子どもたちの成長を支えていく「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。学校運営協議会では、校長が作成するマニフェストや学校経営方針を承認したり、学校運営に提言をしたりして学校経営に参加していただきます。

本年度は、5月12日（木）に第1回役員会、5月30日（月）に第1回学校運営協議会を開催して、マニフェストと学校経営方針を承認していただき、本年度の活動計画を決めていただきました。主な活動内容は、定期テスト前に学力補充のための学習会をしていただく「城東寺子屋」、「絵本の読み聞かせ」「面接練習」、「通学路の安全確保の取組」等です。コロナ禍の中で、感染対策を施しながら、活動していただいています。詳しくは、「城東中学校ホームページ」にリンクを張ってある「城東中学校応援隊！」のホームページをご覧ください。本年度の学校運営協議会委員の皆様を紹介させていただきます。**☆役員（敬称略）**

1	地域代表（諏訪地区）		お名前は、掲載しません	7	保護者代表（PTA副会長）		お名前は、掲載しません
2	地域代表（中瀬地区）			8	有識者	☆	
3	地域代表（平野・服部地区）			9	有識者【会長】	☆	
4	地域代表（府中地区）			10	有識者【副会長】	☆	
5	地域代表（三田地区）			11	地域活動部会【部長】	☆	
6	保護者代表（PTA会長）	☆		12	学習支援部会【部長】	☆	

学校運営協議会主催「城東寺子屋」指導ボランティアスタッフ募集！

本校の学校運営協議会では、年間4回程度、定期テストに合わせて自主勉強会を開設しています。テスト勉強として、参加を希望する生徒自身が教材を持参し、自習する教室です。その教室の講師として保護者・地域の皆様のご協力をお願いします。ご協力いただく中身は、生徒の質問に答えていただいたり、励ましの言葉をかけていただいたりすることです。地域の子どもたちの学びに協力いただける方は、城東中学校（澤教頭☎26-7022）まで、連絡いただきますようお願いします。

なお、直近の「城東寺子屋」の開催は、6月23日（木）・24日（金）、ともに19時～20時で、会場は城東中学校です。

城東中学校運営協議会会長

新しいＡＬＴ（外国語指導助手）の先生が来られました！

本年4月から、本校に来ていただいていた、ジェフ先生に代わって、ブライアン先生が6月から来てくださっています。ジェフ先生は、2016年7月からこの7月までの6年間、伊賀市にお勤めいただきました。ブライアン先生は、アメリカのロサンゼルスから来られて、本校の他に阿山中・霊峰中・柘植中で教えていただきます。

２０２２（令和４）年度　城東中学校マニフェスト

校長　　増田　博

【学校教育目標】　「地域を愛し、心豊かにたくましく生き抜く生徒の育成」

Ⅰ　【人権・同和教育の充実】

つながる

生徒一人ひとりが、周りから大事にされていると実感する集団づくりをめざし、自尊感情を高めます。

⇒　ア　学習計画帳を通して生徒と気持ちの交流を図れるよう、提出の習慣化をめざします。

イ　人権学習、「城東のつどい」、人権講演会などのとりくみでは、自分や仲間をみつめるための発信・交流の場を設定します。

ウ　生徒にできる限り言葉をかけ、授業・帰りの会等で生徒へのプラスメッセージを発信します。

エ　差別をなくそうとする気持ちと態度を、学習を通して育てていきます。

評価目標　①学級等で自分の思っていることや考えていることが言える。【80%】

②今の自分が好きと言える。または、自分にはよいところやがんばっているところがある。【85%】

Ⅱ　【学力の向上】

わかる･できる

目標をもたせ、その実現に向けて家庭学習を習慣化させるとともに、わかる授業の創造を目指し授業改善に取り組みます。

⇒　ア　教育相談により、目標をもたせ、意欲的に学習するよう取り組みます。

イ　表現交流・小集団学習の時間を授業に設定します。

ウ　授業力向上を目ざし、研究授業や授業参観に積極的に取り組みます。

エ　毎時間、宿題を提示し、やった効果を実感する手立てを工夫します。

オ　マイスタノートの活用を図り提出を習慣化します。

カ　読書の習慣化を図るために取組の工夫と研究をします。

評価目標　①授業がよくわかる。【90%】

②家庭では、平日2時間以上、休日4時間以上、家庭学習にとりくんだ。【50%】

③自分の設定した目標時間以上、読書をすることができた。【70%】

Ⅲ　【キャリア教育の推進、地域との連携】

であう

出会い・体験学習を通して、気づきと感動を大切にしたとりくみを進め、将来への夢や目標をもって生活する力を育てます。

⇒　ア　毎学期、ゲストティーチャーや講師を招いての学習を充実します。

イ　校区探検、職場体験、修学旅行などの体験活動や交流活動から学習する機会を充実します。

ウ　学校運営協議会と連携し、地域の人との交流から学ぶ機会を増すように努めます。

エ　学年通信、学校だよりの発行、ホームページ等による発信の充実に努めます。

オ　生徒に望ましい働く姿を示し、生徒と向き合える時間の確保に努めます。

評価目標　①人権学習や体験学習を通して、自分を見つめ、生き方について考えることができた。【95%】

②体験学習や人との出会いの機会を通して、将来の夢や目標をもつことができた。【80%】

緊急課題　新型コロナウイルス感染拡大防止に努め、安全に充実した学校生活ができるよう取り組みます。